

先は長く汗びっしょり(3月22日10日目)

札所間が約80kmを三日かけて歩く二日目。アスファルト舗装の国道55号線(土佐東街道)を長距離歩きます。今日は昨日の雨降りの日と異なり曇りですが、雨降りの翌日なので湿度がかなり高く、汗ビッショリの日でした。今日も国道55号線一本道なので、道に迷うことはありません。昨日ほどの距離ではありませんでしたが、長い距離を歩く二日目なので、しっかりとテーピングを巻いて歩きました。

ザックの左肩ベルトにマジックテープで貼り付けたスマホからは、距離と経過時間を知らせるアナウンスだけ聞こえるように設定して、お経は使わず波の音だけを聴きながら歩きました。単調で淡々と繰り返し押し寄せる波の音は、同じ様ですが同じではなく、場所によって大きく違う感じがします。

宿を出て1時間ほどで、県境となっている古目峠(こめとうげ)を越えて、高知県東洋町に入りました。「発心の道場」から「修行の道場」に、修行の地を移します。山側と海側に入ったり出たりしていると、四国屈指の遠浅の美しい砂浜海岸で、岸から沖合に約50mほど浅瀬が続く白浜海岸(白浜海水浴場)に出ました。これからの行程は、白浜海岸からいったん山側に入りますが、それ以降は左側に海、右側に切り立った崖のように陸地が迫る一本道です。



県境 徳島県から高知県へ

朝から3時間ほど歩いた所で、海岸から「ゴロゴロ」と石がぶつかり合うような音が聞こえてきます。普段良く耳にする波が「ドーン」と打ち寄せ「サー」と引いていくのと全く異なり、「ゴロゴロ」と大きな石を引きずるような音のするゴロゴロ海岸です。遍路小屋に国土交通省が設置した看板に「ゴロゴロ海岸の由来」というのがありました。



ゴロゴロ海岸の由来

以前、おせっかいを自任する友達に、この看板を「きれいに掃除してあげたい」と、言わしめた少々汚れている看板で、チョットもったいないな〜って感じながら早めの休憩をかねて読みました。

色々と調べてみると、面白いことが沢山ありました。1200年の歴史を持つ距離1200キロに渡る四国遍路でも、この辺りはお遍路さん泣かせの危険な箇所だったようです。海岸には切り立った山が迫り、道路を拓けなかったのです。お遍路さんは、室戸岬までの30kmを、海岸の波打ち際に降りて石から石へと跳ねながら、濡れたゴロゴロ石で転ばぬよう、荒波のよせる磯を遍路道として歩いたのです。この野根のエリアは、その昔お遍路さんにとって最大の難所だったというのは想像に難くありません。

徳島県の海沿いから高知県高知市方面には、古く奈良時代には野根山官道と呼ばれ、藩政時代には参勤交代に使われた野根山街道があります。徳島県と高知県境にある東洋町野根地区から奈半利町（なはりちょう）に至る、延長35km余りの野根山連山尾根伝いの道で、現在の国道493号線です。この道は、室戸岬方面には行かずにショートカットする形で山中を突き抜け土佐湾に抜けるのです。お遍路さんは、室戸岬付近



ゴロゴロ海岸

にあるにある24番札所最御崎寺、25番札所津照寺及び26番札所金剛頂寺を巡拝するので、野根山街道は通らず、道のない荒波のよせる磯を遍路道として歩いたのです。この為、国道55号線の下となる道が切り拓かれる大正時代までのこの区間約30kmは、四国八十八ヶ寺歩きお遍路の最大の難所と言われていたのだそうです。

面白いことをもう一つ、なんとこの地区の地名は「東洋町大字野根字ゴロゴロ」なのだそうです。「ホントスカヤ」とばかり検索してみましたら、不動産登記簿の所在地に記載されていました。地元の方は、現在でもこの周辺をゴロゴロやゴロゴロ浜と呼んでいるそうです。

また、弘法太師が腰の怪我をした旅人の治療にゴロゴロ浜の石を温めて使ったという伝説も残っており、お遍路さんは石を旅路のお守りとして拾う風習があるのだとか。ハワイでは古代から温かい石を使って体の不調を治す文化があるそうです。暖めた石を使って体を温めながら揉みほぐす「ホットストーンロミロミ」です。温かい石の遠赤外線の変動が、体の不調を整えてくれると言われてます。ホットストーンセラピーは、大自然のエネルギーが凝縮したストーンを使った施術が特長で、体の深部まで温かくして体の深部の疲れや痛みを癒してくれることから、ハンドトリートメントでは得ることのできない深いリラクゼーション効果をもたらし、ハンドのみのトリートメントの3倍から5倍とも言われる新陳代謝の促進効果を持ち、施術後の持続も長いと言われてます。

弘法大師という名前を出すことで、何か特別の力、法力が備わった行為のように伝えられま

す。でも、寒いときや足をくじいて痛みを和らげようとしたときに、たき火の中に平べったい石を拾って投げ込み、それでカイロ代わりや温湿布の代わりにすることは、アウトドアでは普通にあることで、特に弘法大師でなくともできそうです。想像するに、元になったのはお遍路さんの生活の知恵だったのではないかと思うのです。四国に来ると何かと言えば弘法大師を持ち出す。こんなに弘法大師の名前を安売りしたり笠に着たりして「イイノスカヤ〜・・・!」。危ないあぶない、また罰当たりなことをいってしまいました。

高知県東洋町から室戸市の区間は、四国地方整備局から発表されている「道路の走りやすさマップ」において、最良の「Sランク」の評価をうけています。日和佐の23番札所薬王寺から室戸岬の24番札所最御崎寺まで80kmの間には四国八十八箇所寺院がないため、中には暑い日中を避けて夜を徹して歩く遍路もいたといます。この様なことから、歩きお遍路さんにも気を配って、歩きやすい道になるように整備してくれたのかも知れません。この様なことを知ると、舗装面で足の裏が痛い等と口が裂けても言うてはいけないのかも知れません。でも、私はまだまだ修行が足りないのだから、舗装されているから足の裏に水泡ができてやすいだとか膝が痛くなる等々言いたい放題で、人様の配慮に気づかない未熟者です。

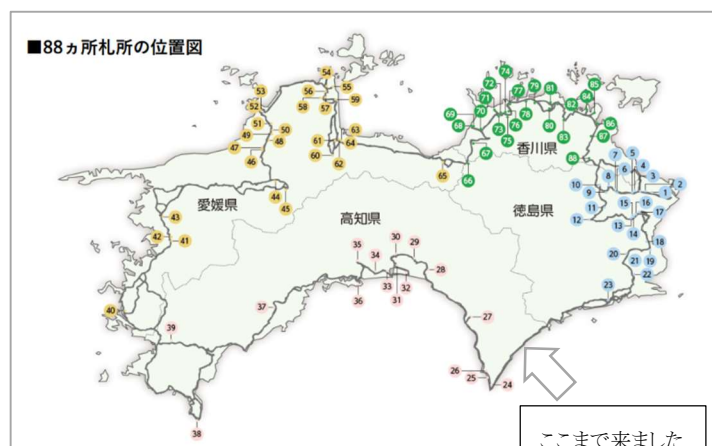
典型的な「おせったい」のみかんを頂きました。畑仕事の帰り道のように、年の頃80歳台のご夫婦でした。無言に近い小さな声で、多分「もらってください」と言ってくれたのだと思いますが、大きなみかんを差し出してくれました。私は納め札をお渡し、南無大師遍照金剛と三遍唱えました。すると、「どこから来たのか」等と何か聞くわけでもなく、無言で頭を下げ立ち去って行きました。日常的なことのようになりげない振る舞いでした。「おせったい」とはこれか〜と感心してしまいました。

最大の心配だった足の裏は、何とか今日も水泡を出さずに歩きました。宿に着いてテーピングを全部取ると、足の裏の表面は真っ赤で熱を持っていました。油断できない状況です。

四国八十八ヶ寺歩きお遍路を始めて10日目の今日をもって23霊場を巡拝し徳島県（阿波の国）から高知県（土佐の国）に入りました。

仏教の教えでは、お釈迦さまは「東方」で仏道を得る決意（発心）をし、「南方」で修行を行い、「西方」で菩提を得て、「北方」で涅槃したという「四門」の儀が伝えられています。こと修行では、仏道を極めるにはこの思想をもとにこの四つの通過門を経る必要があると考えられています。修行の場でもある「四国お遍路」も、徳島、高知、愛媛、香川の4県が、この四門に相当する通過門となっています。今日までの10日間で歩ききった徳島（阿波）「発心の道場」は、仏の道に入ることを決意する門で、お遍路を決意し、1番札所霊山寺で発願し、お大師様の足跡をたどる長い旅を始めるのだと説明されています。

徳島県（阿波）内の 23 霊場を巡拝する歩きお遍路は、仏の道に入ることを決意する「発心」と言うところに重きを置いているようです。しかし、この 10 日間の実感としては、この先にある高知県（土佐の国）での「修行」に耐え抜く体力・精神力を身につけるための時間だったように思います。心身共に健全でなければ、修行にしっかり向き合えません。修行としっかり向き合えるように、修行の入り口に立つ為の前段階の修行なのではないかと思えます。歩きお遍路を始めて、日も浅い 3 日目に、最初にして最大の遍路ころがしである 12 番札所焼山寺に挑ませ、その後長い遍路道を歩かせて気持ちが折れるか否かを試し、更にその 4 日後には二つの遍路ころがしを一日で越えさせるというだめ押しをしています。この理由が今になって分かるような気がします。



ば、修行にしっかり向き合えません。修行としっかり向き合えるように、修行の入り口に立つ為の前段階の修行なのではないかと思えます。歩きお遍路を始めて、日も浅い 3 日目に、最初にして最大の遍路ころがしである 12 番札所焼山寺に挑ませ、その後長い遍路道を歩かせて気持ちが折れるか否かを試し、更にその 4 日後には二つの遍路ころがしを一日で越えさせるというだめ押しをしています。この理由が今になって分かるような気がします。

私自身、この 10 日間では、先を見るのではなく今を見つめるようになりました。今、この一瞬がとても大切で掛け替えのない時間のよう思い始めています。この今、この一瞬のことで精一杯で、あれこれ考えることが少なくなり、気づくと周りの音や色そして匂いを感じながら自然の中に身を置いて、その場の空気感と一緒に歩いているように思えるのです。これから入っていく高知県（土佐の国）「修行の道場」では、この今に感覚がどのように変わるのか変わらないのかが楽しみです。

明日も今日と同じでほとんど平坦の国道（アスファルト舗装）を歩きます。室戸岬近くの 24 番札所最御崎寺への道が急な登りになるだけで、あとは平坦です。明日は本降りの雨の予報です。濡れた靴で歩くと水疱が出来やすいので、靴を濡らさない対策を考えないといけないです。これまでも撥水処理の靴は、雨対策では全く効果が無かったので心配です。

行程等基本データ

- ・巡拝寺院：巡拝寺院なし
- ・天気：午前 曇り／午後 曇り
- ・歩いた時間：8 時間 15 分／日（6 時 45 宿発～15 時 00 分着）
- ・歩いた距離：28.5 km（平均速度：3.5 km/h）
- ・通過市町村：1 市 2 町（海陽町・高知県東洋町・室戸市）
- ・高低差：34m（1⇄35m）
- ・消費カロリー：2,835 kcal